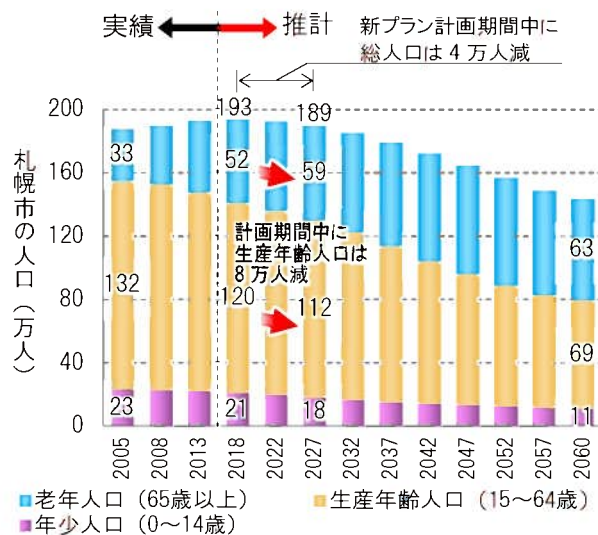


第1章 実行プログラムの策定にあたって

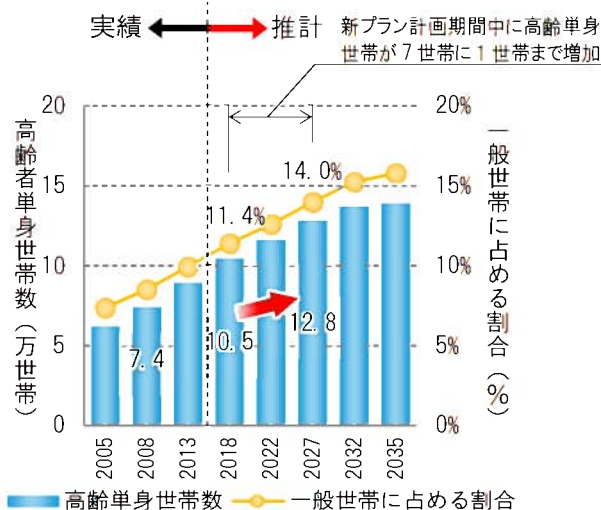
1. 札幌市冬のみちづくりプラン 2018 の概要

札幌市では、2018年12月に新たな雪対策の基本計画として「札幌市冬のみちづくりプラン2018（以下「新プラン」とする）」（計画期間：2018～2027年度）を策定しました。新プランでは、人口減少や高齢化の一層の進行といった社会環境が大きく変化する状況の中であっても、雪対策が抱える課題に対応し、市民の皆さんが将来にわたり安心して安全に冬を過ごすことができるよう、「安心・安全で持続可能な冬の道路環境の実現」を目指すべき将来として設定し、その実現に向け5つの視点で重点施策を展開することとしました。

(1) 迫る人口減少・超高齢社会の進行



札幌市の総人口と将来推計人口
 (出典:「さっぽろ未来創生プラン(2016年策定)」を基に算出)



札幌市の高齢単身世帯数及び一般世帯に占める割合の将来見通し
 (出典:「札幌市まちづくり戦略ビジョン(2013年策定)」を基に算出)

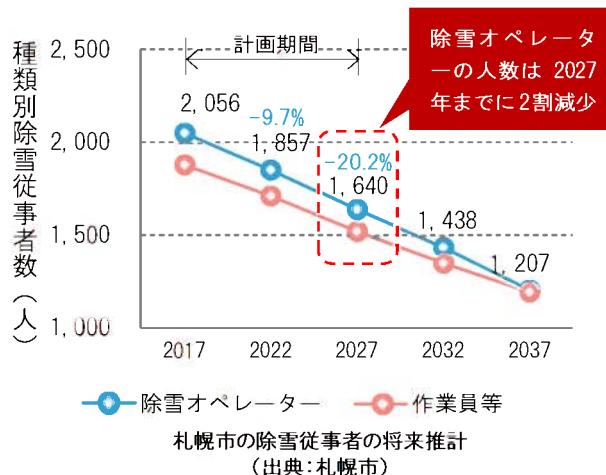
(2) 雪対策の主な現状と課題

課題1 市民ニーズに対応した除排雪

- ・市民ニーズや超高齢化社会などに応じた冬期道路交通の確保
- ・パートナーシップ排雪制度¹の利用に係る町内会の負担増
- ・記録的な気象の発生

課題2 危ぶまれる除排雪体制

- ・除雪従事者²の不足・高齢化の進行
- ・除雪オペレーター³の厳しい労働環境
- ・除雪機械の老朽化の進行
- ・雪堆積場⁴の郊外化の進行



第1章 実行プログラムの策定にあたって

課題3 増大する除雪予算⁵

- ・ 労務単価⁶や機械損料⁷の高騰
- ・ 除雪予算の急激な増加

課題4 市民との協働による雪対策

- ・ 高齢化の進行に伴う間口の雪処理への負担感の増加
- ・ ボランティアの担い手不足への対応

課題5 雪対策に対する市民意識

- ・ 依然として一部の路線では冬のルールが守られていない



2009～2018年における除雪予算
(労務単価などの補正含む)の推移
(出典:札幌市)

(3) 雪対策の方向性

社会環境が大きく変化する状況の中であっても雪対策が抱える課題に対応し、市民の皆さんが将来にわたり安心して安全に冬を過ごせるよう、「目指すべき将来」を次のように設定しました。

【目指すべき将来】
安心・安全で持続可能な冬の道路環境の実現



実現に向けては、除雪予算の増加を可能な限り抑えるとともに、ICT⁸などの先進技術を活用することなどにより、作業の効率化や省力化、労働環境の改善などにつながる取組を進め、安定的に除雪体制を維持していきます。

視点1 安心・安全な 冬期道路交通の確	除排雪作業を工夫しながら限られた人員・体制においても、これまでの除雪水準 ⁹ の維持を目指す。
視点2 除排雪作業の 効率化・省力化	持続的に除排雪作業を進めるため、ICTなどの先進技術を活用し、作業の効率化や省力化を進める。
視点3 除排雪体制の 維持・安定化	企業の経営の安定化に資する取組や労働環境の改善、人材の育成を支援し、除排雪体制の維持安定化を図
視点4 雪対策における 市民力の結集	地域レベルの除雪に取り組む地域団体やボランティア企業の活動を支援し、地域の除雪力の向上を目指
視点5 雪対策に関する 広報の充実	市民が快適な冬を過ごせるよう、幅広く冬のルールやマナーなどの理解につながる広報を進める。

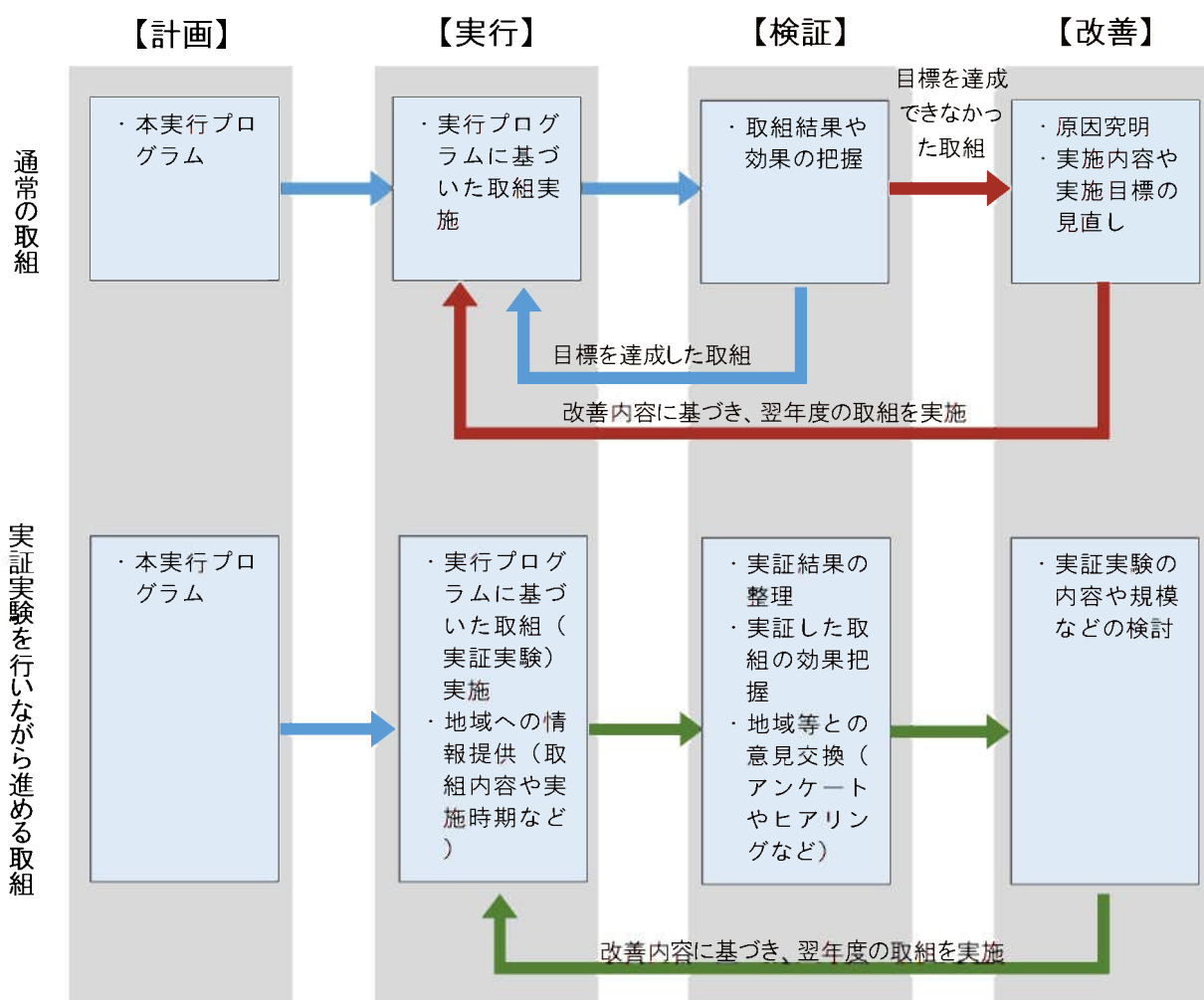


以上5つの視点に基づいた取組を実施することで、以下の効果が見込まれます。
「効率化・省力化」「労働環境の改善」「担い手確保」「生活環境改善」「協働の推進」

2. 目的

本実行プログラムは、新プランの実行性を確保することを目的としており、「新規」と「拡充」の取組については具体的な実施内容や実施目標を定め、これに基づき進行管理を行っていきます。また、「継続」の取組についてもこれまでと同様に適切に進めていきます。

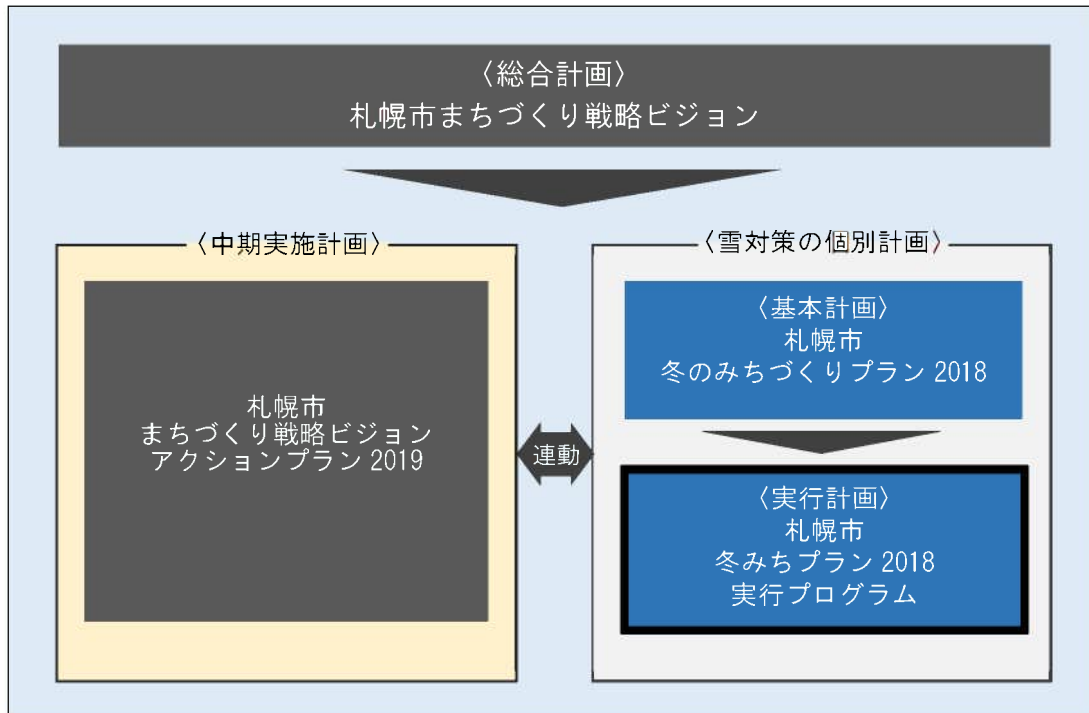
なお、本実行プログラムは、今後確実に見込まれる人口減少や超高齢社会の一層の進行など、これまで経験したことのない社会情勢下での計画であることから、期間中であっても社会環境や市民ニーズの変化に応じて、適宜取組内容の見直しや追加を行います。



※市民議論が必要な取組については別途検討

3. 位置付け

本実行プログラムは、「札幌市まちづくり戦略ビジョン」を実現するための中期実施計画「札幌市まちづくり戦略ビジョン・アクションプラン 2019」と連動するとともに、関連する個別計画や個別事業などと整合を図りながら定めた計画です。



【札幌市冬のみちづくりプラン 2018】



■ 策定

2018年12月

■ 掲載ホームページ

<http://www.city.sapporo.jp/kensetsu/yuki/huyumitiplan2018/huyumitiplan2018.html>

4. 計画期間

本実行プログラムの計画期間は、2019年から2023年（5年間）とします。

なお、新プランの計画期間後期である2023年以降については、進行管理の結果や社会情勢などを踏まえつつ、次期中期実施計画とも連動を図りながら次期実行プログラムを作成することとします。

2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
札幌市冬のみちづくりプラン 2018（10年間）									
本実行プログラム					次期実行プログラム				

※本実行プログラムに記載した2023年度の実施内容・実施目標は、2022年度までの実施結果などを踏まえるとともに、次期中期実施計画との連動も図りながら適切に見直しを行う予定です。

5. ICTなどの先進技術の活用

札幌市では、雪対策事業の課題に対応していくため、近年、目覚ましい発展を遂げるICTなどの先進技術を活用し、安心・安全で持続可能な冬の道路環境の実現を目指します。

〈建設分野などへのICT活用に係る国の政策動向〉

我が国の建設業は、インフラ整備やその維持管理などの担い手として社会経済を支える重要な役割を果たしてきましたが、一方で国全体の課題である高齢化や生産年齢人口減少などの影響を受け、建設現場を取り巻く環境は厳しさを増しています。

具体的には、生産年齢人口減少と他業界への人材流出による担い手不足、若手労働者の減少と既存労働者の高齢化によるノウハウの引継ぎ不足、インフラ維持費用の増大などが挙げられます。

これらの課題に対し、国土交通省などでは、建設従事者の継続的な処遇改善や週休2日制の導入に向けた環境の整備を行う「働き方改革」、ICTの活用や従事者の配置・活用の最適化などによる「生産性の向上」に取り組んでおり、平成28年9月12日の未来投資会議で示された「建設現場の生産性を2025年度までに2割向上を目指す」方針のもとに、国土交通省では「i-Construction」をコンセプトとして、建設現場へのICT活用による業務効率化を推進しています。

〈札幌市の雪対策におけるICT活用〉

札幌市では、平成28年度に「札幌市ICT活用戦略」を作成し、ICTの積極的な利活用により札幌市の抱える課題を改善することを目指しています。

同戦略の基本施策「暮らしの質の向上（生活）」には、雪対策の充実（除排雪業務におけるビッグデータ¹⁰やGPS¹¹の活用など）を施策の一つとして挙げており、雪対策分野におけるICT活用に取り組むこととしています。

札幌市を取り巻く社会環境は大きく変化しており、またICTなどの先進技術の進歩も急速に進んでいます。

新プランに基づく取組を推進するにあたっては、日々発展する先進技術の動向などを見据えつつ、技術の進歩に柔軟に対応しながら、新たなICTの活用などについて検討を進めていきます。